

2004年(平成16年)6月9日(水曜日)

言葉

響

糸

屋

地域

秋田2

湯沢の団体が選出

里地里山コンテスト

里地里山の保全に取り組む団体を表彰する「日本の里地里山30コンテスト」(読売新聞社主催、環境省共催)で、県内から湯沢市の「プロジェクト400実行委員会」(斉藤茂美代表)が選ばれた。実行委は一年前から、湯沢城址や、その周辺の清掃活動、植樹、散策路の整備などを始め、市民参加型の活動が評価された。

「お城山」の愛称で親しまれてきた。しかし近年は、城址やその周辺も整備されないまま荒れ果て、子供たちの遊ぶかたところ、二百人近い市民が集まった。多くの市民に湯沢の自然や歴史に触れてもらおうと、木々や草花の植樹や、城下町のかつての水路だった「大堰」に升を流して競う「ますますレース」の開催などにも取り組んできた。

齊藤代表は「子供たちに湯沢の自然や歴史にたくさん触れてもらい、郷土のすばらしさに誇りを持ってもらえれば」と話し、今後は体験学習の場として城址の整備に力を入れていく。

実行委が発足したのは、秋田藩主・佐竹家の分家にあたる佐竹南家が、湯沢市

実行委は、市民団体「ゆざわ井戸端会議」のメンバーが中心となり、行政やボランティア団体も加わった。まずはササやぶだった散策路を整備しようと呼び

コンテストは、全国の百六十一団体から応募が寄せられ、二十団体が選ばれた。表彰式は十二日、読売新聞東京本社で行われる。



湯沢城址の散策路を整備する市民ら
(プロジェクト400実行委提供)